

京都府は18日、府政の新たな基本指針となる府総合計画の中間案を明らかにした。感染症対策や高齢化社会に対応した「安心できる医療・福祉基盤の充実」など八つのビジョンを骨格と位置付け、府政の発展や課題に対応する。賛否が交錯する北山エリア（京都市左京区）の再整備を進める方針も打ち出した。

安心できる医療・福祉基盤の充実…

府総合計画中間案 8ビジョン骨格に

現計画は2019年10月に策定され、期間は24年3月まで。今年4月の知事選で再選した西脇知事が、新型コロナウイルス感染拡大や国際情勢の変化を踏まえた府政を進める必要があるとして、次期計画の策定時期を1年早める方針を決めた。府は知事選公約のキーワードだった「安心」「温もり」「ゆめ実現」を軸に据えて作業を



京都府の新しい総合計画の中間案が示された検討委員会(18日、京都市上京区のホテル)

北山エリアは再整備方針

進めている。現計画からの大きな変更点としては「子育て環境日本一」「府民躍動」など五つの「チャレンジ」でまとめた全体構成を、「人にやさしく豊かさを感じられる生涯現役・共生の京都づくり」「未来を拓く産業づくり」など八つの「ビジョン」に改めた。

このうち「安心できる医療・福祉基盤の充実」は、社会経済活動が停滞したコロナ禍の教訓を反映。新興感染症に備え、平時から医療や介護、保健分野の人材育成、ネットワークづくりを進めるとした。

西脇知事がこだわる「子育て環境日本一」もビジョンの一つとして引き続き打ち出し、奨学金返済支援制度の充実など若者が経済的ゆとりを持てる施策や、子育てに対する職場の理解促進などを掲げた。

北山エリアについては、計画の柱である府立植物園の再整備や府立天体育館のアーリーナ化、旧総合資料館跡地の整備を「推進」などと明記した。

この日、有識者でつくる検討委員会が上京区のホテルで開かれ、中間案が示された。府は中間案を府議会9月定例会で報告し、パブリックコメントを経た後、12月定例会に議案として提案する方針。